

岡崎むかし館通信

<http://www.city.okazaki.lg.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。



新年度が始まったと思えば、もう夏休み。早いですねえ。

地域の再発見

野本先生のフィールドノートメモ

地域を歩く—^{はいじょうけつ}盃状穴を訪ねて—

岡崎市内各所で見られる盃状穴について報告をします。

盃状穴は、岩石や石の構造物等に彫られている盃状の穴のことを指します。この盃状穴は、世界各地で見られ、再生や不滅のシンボルとして信仰されてきました。

日本でも、盃状石信仰は縄文時代から行われており、本来は、^{いわくら}磐座に彫られ、子孫繁栄や死者の再生を願ったものだといわれています。古墳時代には古墳の棺に彫られ、中世にはムラの入口に魔除けの目的で作られたり、神社の燈籠や手水鉢に彫る場合が多くなりました。

盃状石信仰は明治維新以後も残り、昭和初期までは続けられていたという報告もあります。

私が岡崎市内外を歩き回って調査したところ、常夜燈や手水鉢に、穴が穿たれている事例を無数に確認することが出来ました。その時、近くにいた70歳代の男性に話を伺うと、子どもの



頃この穴で「もぐさ」(ヨモギの葉)を突いて遊んだものだと教えてくださいました。この他にも、3名程の男性が同じような話をしてくれました。この穴にヨモギなどの草を入れて小石(丸石)や棒で突く遊びは、かつて日本各地で見られた光景です。新実南吉の『音ちゃんは豆を煮ていた』にも登場します。この本の中では、女子の「ママゴト遊び」として描かれていますが、私が聞いた地域では、男子の遊びだったようです。



盃状石信仰と子ども達の遊びの関係はよくわかりませんが、昔から残されていた盃状穴を使った遊びの中に、古代からの人々の願いが生きているのではないのでしょうか。是非、地域の神社仏閣、常夜燈を一度見直して見てください。【N】

むかし館の活動より

夏休み子ども体験講座・社会科自由研究相談会について

社会科研究作品への取組み支援として、りぶら開館翌年の平成21年度から「夏休み子ども体験講座／社会科自由研究相談会」を実施しています。

社会科自由研究相談は、岡崎むかし館主任専門員の野本欽也先生が、豊かな知識と経験から、相談者に応じた的確なアドバイスを行っています。中には相談会以降も、熱心に研究の経過報告に来館してくれる子もいます。相談も「何をどう取り組んだら?」という漠然としたものから、より具体的な内容へと変化しているように感じます。

また、平成24年度からは、相談者に市内文化財マップや参考図書リストなども配布しています。

同時開催の体験講座も、平成21～23年度は昭和10年代、30年代のくらしを再現した回転ステージを基本に、道具などの解説を実施。平成24年度には、企画展テーマ「運ぶ」に合わせ、「天秤棒」「背負子」「風呂敷」などを使い「モノを運ぶ」を体験。平成25年度は回転ステージで「夏の道具」探し。平成26年度は道具観察を中心に、「蚊帳」「こなす道具」「羽釜と炊飯器比べ」を見て触れて体感できるようにしました。

毎年、試行錯誤です。今年は、道具観察に工作をプラス！竹炭風鈴作りも実施予定。昨年度は体験講座をヒントに、自由研究に取り組む子もいました。何気ないモノから興味関心が広がり、知ることの楽しさを感じてもらえたら嬉しいです。



「盃状穴」なんて、意識しなければただの窪み。何事も意識をし、興味を持つことが重要なんですね。しかし、意識をするにもきっかけは必要！むかし館通信が、何らかのきっかけになればと思います。

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成27年7月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

開催中 【企画展「木の民具～桶・樽～」 ～ 7/7】

次回展示 【企画展「岡崎の和ろうそく」 7/9 ～ 9/15】

催事 【夏休み子ども体験講座・社会科自由研究相談会】
7/26(日)・27(月) 時間①10:00-11:30 ②14:00-15:30
※社会科自由研究相談は講座開催中随時受付